

平成 2 4 年 度 自 己 評 価 書

学校評価アンケート 回収状況	児童	42名	100%	教職員	11名	100%
	保護者	39名		地域住民	14名	

教育目標		かかわり合うことが好きな麦っ子を育てる					
重点目標 (P計画)	重点目標	① 個に応じた基礎学力の定着 個に応じた基礎学力の定着を図る授業づくり		② 心の安心づくり 思いやりの心を育む全教育活動と縦割班活動の実践		③ 保護者・地域と課題の共有 組織的・計画的な学校開放と保護者・地域の連携	
数値目標 (P計画)		○児童による自己評価 3.7 以上 ○教員による授業評価 3.5 以上 ○保護者等による授業評価 3.5 以上 ○評価テスト 80 点以上 ○年間 1 人 1 回以上の研究授業及び自主公開授		○児童の目標自己評価 3.5 以上 ○学校評価、教育アンケートによる「思いやりの心に係る項目：道徳」肯定率 90%以上		○家庭学習時間(学年×10分)達成率 100% 家庭学習提出率 90%以上 ○生活アンケート 睡眠 8 時間以上 100% ゲーム、テレビ視聴 2 時間以内 90%以上 ○「児童欠席 1 日目は電話連絡、2 日目は家庭訪問」100% ○幼小・小中連携	
1 取組の状況 (P計画) (D実践)		○「むぎ」「が」「わ」「パワー」学習過程への取り組み ○「麦っ子のまなび」配布 ○四者による授業評価、改善 ○朝学習における基礎学力定着 ○単元評価テストの活用 ○全児童の個人カルテ作成 ○「やまぐち学習支援プログラム」を活用した個別指導 ○自主的な公開授業による授業力の向上		○アンケートを基にした教育相談及び相談結果に基づく生徒指導 ○児童理解の会等において全校指導体制を確立 ○縦割り班活動や委員会活動、係活動の充実とリーダーの育成 ○道徳教育及び道徳授業の充実 ○児童の自主的な話し合いによる目標実現 ○教育環境の整備と充実		○「麦っ子のまなび」配布 ○生活アンケートの実施・改善 ○市生活習慣ガイドライン 10 項目の活用(麦っ子生活みなおし週間実施) ○学校だより等による基本的生活習慣の醸成・保護者への啓発 ○連絡帳や電話連絡、家庭訪問による家庭との連携 ○地域人材の活用及び地域見守り隊、育友会との連携	
目標の達成 状況 (C評価)	肯定率	教職員 97.7%	保護者 93.5%	教職員 100%	保護者 96.5%	教職員 98.2%	保護者 95.2%
	数値目標 の達成状況	児童 88.6%	地域 100%	児童 93.2%	地域 100%	児童 92.4%	地域 88.0%
3 取組の適切さ の検証結果 (C評価)		・「予習」を取り入れた授業への不安が児童にある。 ・共学び「わ」の児童の発表の場の授業の工夫改善。 ・個を生かす授業への取組は評価を得ている。		・いじめ対応への実態把握と早期対応の指導体制ができた。 ・「思いやりの木」の活動や「ありがとう作戦」など児童主体の活動ができた。 ・花壇整備や掲示の教育環境を充実させることができた。		・家庭学習、忘れ物対応、生活習慣など児童の実態にそった家庭連携に課題がある。 ・「麦っ子見直し週間」は期間を決めて取り組んだ成果がでている。 ・地域見守り隊のみなさんとの一斉下校で安全の意識が高まっている。 ・地域の人材や自然を生かした授業を工夫していくことが課題である。	
4 改善方策 (A改善)		・予習が次の授業に生きる授業改善に取り組む。 ・「教えて考えさせて定着させる」授業への授業改善に取り組み、活用力(表現力)育成する。		・児童理解をもとに「いじめ」へ全校体制で継続して指導する。 ・思いやりを育む活動を奨励する。		・学校での保健指導や食育の取組を保護者に継続的に働きかける。(学校保健委員会・たより・懇談会等) ・教育課程の中に地域のよさ(人材・自然)を生かした授業を位置づけていく。	

重点目標 (P 計画)	重点 目標	④ チャレンジ目標 「大きな声で自分からあいさつ をします」 あいさつを充実させることを中 心においた豊かな心の醸成		⑤ チャレンジ目標 「めざせ年間読書 低学年 300 冊 (そのうち家読 200 冊) 中・高学年 150 時間(そのうち家読 100 時間)」 読書活動を礎とした基本的生活習慣の醸成	
数 値 目 標 (P 計画)		○児童による自己評価 3.6 (4よくできた 3できた 2も う少し 1できなかった) ○保護者、地域による評価 肯定率 90%以上		○年間読書 ・低学年 300 冊 (そのうち家読 200 冊) ・中・高学年 150 時間(そのうち家読 100 時 間)」 達成率 90%以上	
1 取組の状況 (P 計画) (D 実践)		○個々のチャレンジ目標 (あいさ つ) の具体化・実践・評価 ○あいさつ運動の推進 (委員会活 動) ○あいさつ実態調査 ○親子でチャレンジ目標を決め振 り返る (がんばろうカード)		○個々のチャレンジ目標 (読書) の具体化・ 実践・評価 ○読書冊数及び読書時間の記録 ○読書ノート指導 ○朝学習・給食前の読書タイム ○親子読書の推進 (読み聞かせの会、選書会 等の実施) ○図書室環境の充実 ○親子でチャレンジ目標を決め振り返る (が んばろうカード)	
2 目標の 達成 状況 (C 評価)	肯定率	教職員 100%	保護者 77.5%	教職員 100%	保護者 92.3 %
		児 童 95.2%	地 域 92.9%	児 童 88.1%	
	数値目 標の達 成状況	児童自己評価 3.8 保護者肯定率 77.5% 地域肯定率 93.0%		低学年 300 冊 家読 200 冊 43.8% 中・高学年 150 時間 家読 100 時間 53.8%	
3 取組の適切さ の検証結果 (C 評価)	・委員会のあいさつ運動により意識を高 めることができた。 ・地域で評価されるが、どこでもだれに でも進んでできる事が課題。 ・毎朝健康観察で振り返りすることで、意 識の継続を図ることができた。		・がんばろうカードを「麦っ子見直し週間」でも 振り返ることで意識を継続させることができた。 ・目標者達成者を表彰し、紹介することが励みと なっている。 ・音読カードと一体化させ励ますことができた。		
4 改善方策 (A 改善)	・評価の方法を検討し、よい実践を奨励 し自覚を促していく。 ・挨拶週間 (挨拶運動) を決めて実行し 成果を評価し習慣化していく。		・時間や冊数に加え、読みたい (個人に合う) 本 を選び、楽しく計画的に読書を進める。 ・読書ノートに記録させていく。 ・良書の紹介や市立図書館の活用を進める。 ・親子で目標を決め、継続して取り組む実践を進 める。(家庭連携により本好きな子に育てる)		